

**エコアクション21  
環境活動レポート**

**33期  
(平成26年10月～平成27年9月)**

**平成27年10月24日**

**株式会社 西部技術コンサルタント**

# 環境活動レポート 目次

	頁
1. 組織の概要 .....	1
2. 対象範囲 .....	1
3. 環境方針 .....	2
4. 環境目標 .....	3
5. 環境活動計画 .....	4
6. 環境目標の実績 .....	5
7. 環境活動の取組結果とその評価、次期の取組内容 .....	6
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ...	8
9. 代表者による全体評価と見直しの結果 .....	8

## 1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 西部技術コンサルタント  
代表取締役 松尾涼二

(2) 所在地

本社 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 4丁目18番12号  
久留米営業所 〒839-0817 久留米市山川町 1662-34番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

企画部次長 池田秀司（担当者兼務）  
TEL 092-437-5711  
FAX 092-437-5712  
E-mail : s.iked@seibug.co.jp

(4) 事業活動内容

建設コンサルタント  
道路部門 鋼構造及びコンクリート部門 下水道部門  
河川、砂防及び海岸部門 都市計画及び地方計画部門  
上水道及び工業用水道部門 農業土木部門  
土質及び基礎部門 地質部門  
施工計画・施工設備及び積算部門  
建設環境部門  
測量

(5) 事業の規模（33期：H26/10-H27/9）

項目	売上高	従業員	床面積
単位	百万円	人	m <sup>2</sup>
数量	254	20	400

## 2. 対象範囲

(1) 対象組織

全組織

本社 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 4丁目18番12号  
TEL 092-437-5711 FAX 092-437-5712  
久留米営業所 〒839-0817 久留米市山川町 1662-34番地  
TEL 0942-45-7533 FAX 0942-45-7560

(2) 対象活動

全活動（認証・登録範囲に含まれる全活動）

建設コンサルタント

道路部門 鋼構造及びコンクリート部門 下水道部門  
河川、砂防及び海岸部門 都市計画及び地方計画部門  
上水道及び工業用水道部門 農業土木部門  
土質及び基礎部門 地質部門  
施工計画・施工設備及び積算部門  
建設環境部門

測量

### 3. 環境方針

## 環境方針

株式会社 西部技術コンサルタントは、地球環境の保全が最重要課題の一つと認識し、自然環境の保護に務め、環境に配慮した企業活動を目指します。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。
  - (1) 省エネルギーおよび省資源を推進し、二酸化炭素の排出量を削減します。
  - (2) 廃棄物の減量化、再利用、リサイクルを促進し、廃棄物の排出量を削減します。
  - (3) 水道使用量の削減に取り組みます。
2. 当社に関わる環境関連法令及び協定を遵守します。
3. 行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると主に、地域社会における環境保全活動に積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
4. 環境に配慮した設計を実施します。
5. 環境方針を全員に周知し、環境活動レポートを作成し、環境への取組を公表します。
6. グリーン購入の推進に努めます。

作成日：平成20年11月25日

改訂日：平成26年10月 1日

株式会社 西部技術コンサルタント  
代表取締役 松尾 涼二

## 4. 環境目標

- ・ 当社の環境目標は以下のとおりです。

環境目標	単位	【基準値】 28期(H21/10-H22/9) 29期(H22/10-H23/9) 30期(H23/10-H24/9) 31期(H24/10-H25/9) 32期(H25/10-H26/9) 上記過去5年間の平均値 を基準値とする。	単年度目標	中長期目標		
			33期 (H26/10- 27/9)	35期 (H28/10- 29/9)	37期 (H30/10- 31/9)	
			(本年度目標)	(3年目目標)	(5年目目標)	
1	二酸化炭素 排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	43,300	42,900 (△1.0%)	42,000 (△3.0%)	41,100 (△5.0%)
		kg-CO <sub>2</sub> /売上万円	1.82	1.80 (△1.0%)	1.76 (△3.0%)	1.73 (△5.0%)
2	廃棄物排出量 の削減 ※1	kg	不明	現状把握	33期の実績値から 目標を設定する。	33期の実績値から 目標を設定する。
		kg /売上百万円	不明	現状把握	33期の実績値から 目標を設定する。	33期の実績値から 目標を設定する。
3	環境に配慮した 設計の提案	% (実施業務/ 業務全体※ 2)	100	100	100	100
4	地域社会における 環境保全活動 への参加	回	7	8	10	12
5	グリーン購入 の推進	購入 品目数	21 (31期より計測開始 31・32期の平均)	22	24	26

備考)

- ・ (△) は基準値に対する削減率とする。
  - ・ 二酸化炭素排出量における購入電力の実排出係数は0.387kg-CO<sub>2</sub>/kWh(平成19年度九州電力(株)実排出係数)を用いた。
  - ・ グリーン購入製品の品目数はサイズ・色の違い・複数購入は含めない。
  - ・ 化学物質は使用していないため、環境目標項目から除外した。
  - ・ 前期審査より、水道使用量に関しては使用量削減の体制もでき削減の限界まで達していると思われること、事業として使わない(少ない)為、今期より節水の取組は継続するが、目標設定はしないこととする。
- ※1 H26.5月より一般廃棄物の計測を開始し、33期の数値を基準値とする。
- ※2 原則として官公庁の業務とする。

## 5. 環境活動計画

・環境目標を達成するための環境への取組は以下のとおりです。

- (1) 二酸化炭素排出量の削減（基準値に対して1%削減）
  - ① 室温測定・適温維持（夏：26℃、冬：22℃）によるエアコン測定  
（担当：1F:橋爪、2F:田中）
  - ② 休憩時間の消灯（通年）（担当：1F:橋爪、2F:田中）
  - ③ エコドライブの実施（担当：吉脇、大久保）
  - ④ エコカーの購入（担当：吉脇、大久保）
  
- (2) 廃棄物排出量の削減（現状把握）
  - ① 両面コピーの推奨（担当：1F:橋爪、2F:田中）
  - ② 再生トナーの利用（担当：1F:藤田、2F:原、岡田）
  - ③ ゴミの分別収集、資源ゴミ収集への協力（担当：1F:橋爪、2F:田中）
  - ④ ゴミ排出量の計測（担当：橋爪、藤田）
  
- (3) 水道使用量の削減
  - ① 節水の周知徹底（担当：1F:橋爪、2F:田中）
  
- (4) 環境に配慮した設計の提案（提案率100%）
  - ① 設計業務における環境配慮型設計の提案（担当：篠原、中村、池）
  - ② 地元説明会における環境配慮の説明（担当：篠原、中村、池）
  
- (5) 地域社会における環境保全活動への参加（年8回以上）
  - ① 自治会の資源ゴミ収集への協力（担当：橋爪、藤田）
  
- (6) グリーン購入の推進（年間22品目以上）
  - ① 備品購入時環境配慮型商品との比較検討、積極的な購入（担当：総務）

## 6. 環境目標の実績

- ・ 当社はエコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、平成20年12月から環境活動に取り組んできました。
- ・ 環境目標5項目全てが目標を達成出来ている。

環境目標	単位	【基準値】 28期(H21/10-H22/9) 29期(H22/10-H23/9) 30期(H23/10-H24/9) 31期(H24/10-H25/9) 32期(H25/10-H26/9) 上記過去5年間の平均 値を基準値とする。	33期(H26/10~ H27/9)		目標達成率	判定
			目標値	実績値		
1 二酸化炭素 排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	43,300	42,900 (△1.0%)	28,654	150%	○
	kg-CO <sub>2</sub> /売上万円	1.82	1.80 (△1.0%)	1.13	160%	○
2 廃棄物排 出量の削減 ※1	kg	不明	現状把握	493	—	○
	kg /売上百万円	不明	現状把握	1.94	—	○
3 環境に 配慮した設計 の提案	% (提案業務/受 注業務※2)	原則すべての 官公庁の業務	100	100	100%	○
4 地域社会にお ける環境保全 活動への参加	回	7	8	9	113%	○
5 グリーン購入 の推進	購入 品目数	21 (31期より計測開始 31・32期の平均)	22	30	136%	○

備考) ・ (△) は基準値に対する削減率とする。

- ・ 二酸化炭素排出量における購入電力の実排出係数は  
0.387kg-CO<sub>2</sub>/kWh(平成19年度九州電力(株)実排出係数)を用いた。
- ・ グリーン購入製品の品目数はサイズ・色の違い・複数購入は含めない。
- ・ 化学物質は使用していないため、環境目標項目から除外した。
- ・ 前期審査より、水道使用量に関しては使用量削減の体制もでき削減の限界まで達していると思われる  
こと、事業として使わない(少ない)為、今期より節水の取組は継続するが目標設定はしないことと  
する。

※1 H26.5月より計測を開始した為、33期の数値を基準とするため今期は評価をしない。

※2 原則として官公庁の業務とする。

## 7. 環境活動の取組結果とその評価、次期の取組内容

- ・33期（平成26年10月～平成27年9月）における環境活動の取組結果と次期の取組内容は以下のとおりです。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減（基準値に対して1%削減）

#### <取組結果>

- ① 室温測定・適温維持（夏期26℃、冬期：22℃）によるエアコン測定

F	夏期26℃		冬季：22℃		エアコン無し
1F	25.9	×	19.2	○	22.2
2F	26.4	○	20.1	○	24.8

- ・実測平均室内温度は、上表のとおりである。

夏期の結果、1Fは達成できていない。2Fは達成できている。

冬期の結果、1Fは達成できた。2Fは達成できた。

2Fは達成できている、1Fは達成できていないが努力の跡が見られた。

- ② 休憩時間の消灯（通年）

- ・1F、2Fとも、不要な場合の電源は消しており取組目標を実行している。

- ③ エコドライブの実施

- ・急発進等に注意を払い、エコドライブを実行している。

- ・エコドライブのリーフレットをキー置場・車内に掲示し、意識づけを行っている。

- ④ エコカーの購入

- ・エコカー（ハイブリットカープリウス）を平成27年6月に購入。

#### [目標値に対して]

- ・目標値に対して150%の達成率である。

- ・32期に蛍光灯をLED化、33期のエコカーの購入により電気料金・ガソリン代が大幅に削減出来ている。今後、目標値の検討が必要である。

#### <次期取組>

- ・社用車（営業車）のリース契約終了後、次期契約をエコカー（ハイブリット車へ切替）の予定。（34期（平成28年5月頃））

### (2) 廃棄物排出量の削減（現状把握）

#### <取組結果>

- ① 両面コピーの奨励

- ・両面コピーを推奨し、コピー用紙の節約を行った。

- ② 再生トナーの利用

- ・日頃から再生トナーを使用をしており、再生トナーの利用を実行している。

- ③ ゴミの分別、資源ゴミ収集への協力

- ・使用済みの用紙を、自治体の再生紙回収に提供した。

- ・ペットボトル、アルミ缶、段ボールを分別収集し、自治体再生品回収に提供した。

- ④ ゴミ排出量を計測

- ・可燃ごみの計測を行っている。

#### [目標値に対して]

- ・平成26年5月より計測を開始し、33期のゴミ排出量の実態を把握した。

#### <次期取組>

- ・今後も本取組を継続し新たな目標値を設定する。



### (3) 水道使用量の削減

#### <取組結果>

- ① 節水の周知徹底

#### [目標値に対して]

- ・33期より節水の取り組みは継続するが目標値は設定していない。

#### <次期取組>

- ・今後も取組を続け、漏水の目視調査をする。

### (4) 環境に配慮した設計の提案（提案率100%）

#### <取組結果>

- ① 設計業務における環境配慮型設計の提案
  - ・全業務（官公庁発注業務）において環境に配慮した設計提案に取り組んだ。
- ② 地元説明会における環境配慮の説明
  - ・設計業務等における地元説明会において、環境保全について説明を行った。

#### [目標値に対して]

- ・達成率は100%で達成できた。

#### <次期取組>

- ・今後も本取組を継続する予定である。  
（今後の活用に向けたデータベース（設計提案事例）の構築を目指す。）

### (5) 地域社会における環境保全活動への参加

#### <取組結果>

- ① 自治会の資源ゴミ収集への協力
  - ・使用済みの用紙を、自治体の再生紙回収に提供した。
  - ・ペットボトル、アルミ缶、スチール缶を分別収集し、自治体再生品回収に提供した。

#### [目標値に対して]

- ・年8回に対し内8回は、自治会への協力、1回は「ふくおか川と水の会」に参加した。

#### <次期取組>

- ・目標達成の為、次期は環境活動についての情報収集に力を入れ新しい環境保全活動（ふくおか川と水の会等）の参加定着をめざす。

### (6) グリーン購入の推進

#### <取組結果>

- ① 備品購入時環境配慮型商品との比較検討、積極的な購入。
  - ・文具日用品は、出来る限りグリーン購入法適合製品・エコマーク認定製品を購入した。

#### [目標値に対して]

- ・達成率は136%であった。

#### <次期取組>

- ・今後も本取組を継続する予定である。

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認

### 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 当社の事業活動に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・ また、関係機関等からの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟も、過去3年間ありませんでした。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (1) 全体評価

- ・ 全社員でエコアクション21に継続的に取り組み、環境意識の向上を目指している。
- ・ 業務の中に環境配慮設計を取り込み、発注者の評価も高い。
- ・ 今期はエコカー(社用車)購入を行い、ガソリン代の節約による二酸化炭素排出量の削減が見られた。
- ・ 電気使用量の減少等 経費節減効果等が認められている。
- ・ 以上より33期の環境への取組結果は良好と評価している。
- ・ 今後とも社員の環境意識を向上するための環境教育を実施するとともに、本業における環境配慮設計の取組を継続する。

### (2) 見直し結果

- ・ 環境方針は次期も継続するが、環境目標、環境活動計画については、目標達成や取組結果が良好であったため、次期はさらなるステップアップが出来るよう内容の見直しを行う。
- ・ 34期は、33期エコカー購入(社用車)でガソリン代の節約による二酸化炭素排出量の削減が見られた為、さらなる削減を目標にエコカー(営業車リース)の導入を検討する。